

1. 前年度の成果と課題 (CHECK : 検証)

① 「現代社会と女性」

外部講師を精選するとともに、1年次に3回の初年次教育を取り入れた。ガイダンス、キャリア形成、人権を考える等のテーマで実施した。また、学科・コースの担当者の協力を得て、司会進行をお願いするなど、運営面も改善した。

② 「生涯学習論」

長崎新聞社職員による出前授業を取り入れたり、アクティブラーニングの要素を導入したり、また最終回には報告書による発表会を実施した。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

① 「現代社会と女性」

前年度との大きな変更点はない。15回の構成の柱は、(1) ガイダンス機能、(2) キャリア形成、(3) 人権感覚の育成である。

② 「生涯学習論」

内容に大きな変更はないが、各回とも本学の所在する「長崎」を意識した授業内容とした。例えば、「長崎のまちづくりを考える」として、長崎市の政策監の出前授業を取り入れたり、

「長崎の人口問題を考える」というテーマで授業を行う。最終回には、前年度同様に報告書による発表会を行い、相互評価を実施する。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO : 実行)

① 「現代社会と女性」

- ・1年次：初年次教育、ガイダンス機能、キャリア形成、人権教育を柱とする。外部講師は精選して依頼する。
- ・2年次：前年度の計画を大きく変更することなく4回実施する。

② 「生涯学習論」

基本的には「長崎」をテーマにした授業構成とし、長崎新聞社からの出前授業を2回、長崎市からの出前授業を1回、「長崎さるく体験」を7月に2回分として実施する。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK : 検証)

※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

① 「現代社会と女性」

2年次は、最終回に書かせたアンケート（自由記述）では評価は高かったが、全体的な満足度はSが前年度の4.3から3.6、Lが4.5から4.6、Yが4.2から4.0という結果であった。栄養士

コースの評価が低かったことは残念である。1年次はSが4.3から4.0、Lが3.7から4.3、Yが3.7から4.0という結果で、やはり栄養士コースの評価が低い状況である。

② 「生涯学習論」

満足度の評価は、Sが4.6から4.2（-0.4ポイント）、Lが4.0から4.5（+0.5ポイント）、Yが4.2から4.0（-0.2ポイント）という結果であった。受講者数が少なかったことも影響していると思われるが、各回の授業内容をさらに工夫していきたい。

学生による授業評価アンケートの結果

科 目 名	対象 学生	内容や レベル		教員の 教え方	学生の 学習意欲	学生の 理解度	授業外 学修時間	全体的な 満足度						
現代社会と女性	18S	4.0		3.8	4.0	3.9	12.9分	3.6						
	19S	3.9		4.0	3.9	4.0	20.4分	4.0						
	18L	4.5		4.3	4.5	4.6	4.6分	4.6						
	19L	4.0		4.1	4.3	4.4	13.9分	4.3						
	18Y	3.9		3.9	4.0	4.1	12.7分	4.0						
	19Y	4.1		4.2	4.2	4.2	7.9分	4.0						
	生涯学習論	18S		4.2	4.2	4.0	25.0分	4.2						
	生涯学習論	18L		4.5	4.5	5.0	60.0分	4.5						
	生涯学習論	18Y		3.3	4.0	3.8	30.0分	4.0						
評 価														
科 目 名	対象 学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	S	A	B	C	F	W (脱落)				
					人	%	人	%	人	%	人	%		
現代社会と女性	18S	必修	28											
現代社会と女性	19S	必修	29											
現代社会と女性	18L	必修	14											
現代社会と女性	19L	必修	30											
現代社会と女性	18Y	必修	115											
現代社会と女性	19Y	必修	108											
生涯学習論	18S	選択 必修	6	84.5	1	16.7%	3	50.0%	2	33.3%	0	0.0%	0	0.0%
生涯学習論	18L	選択 必修	2	92.5	2	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
生涯学習論	18Y	選択 必修	5	67.0	1	20.0%	2	40.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

①アクティブラーニング

「生涯学習論」では、発表、作業、話し合い等の形式を必要に応じて取り入れた。「現代社会と女性」については、受講者数や講師の事情により、あまり取り入れることはできなかった。

②オフィスアワー

残念ながら、学長室を訪問し、相談・質問した学生はいなかった。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

①「現代社会と女性」

内容を大きく変更する予定はないが、各学科・コースの代表者との協議を行い、改善点を探りたい。

②「生涯学習論」

「長崎」をテーマにした授業展開の1年目であった。次年度も大きく変更する予定はないが、「長崎さるく体験」を実施するかどうかについては検討していきたい。

平成 31 年 前 期 授業評価報告書

氏名

橋口 亮

1. 前年度の成果と課題 (CHECK : 検証)

成果：1. 全員単位を取得した。 2. 1, 2年生とも努力する学生が1割ほどみられた。
 課題：1. 選択科目ではあるが、2年生の受講者数が極めて少なかった。
 2. 学びへの向き合い方が2極化しており、その差は大きくなっている。
 3. 学びを目的としていない学生の意識を変えることができない。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

18S：栄養士実力認定試験における認定Aの割合を増やす。70%に近づける。
 GPA1.2以上を意識しなければならない学生への対応を心掛ける。
 19S：前期の授業アンケートより、必要な印刷物は配布し、学びの意識を上げる。
 GPAを意識させる。
 一方的な講義ではなく、テーマや課題を共に考えるものとする。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO : 実行)

18S：実験科目なので、手順や内容の理解度を高めるためできる限り、学生に実験させるようにした。
 レポート作成の考え方を毎回、繰り返し伝えた。
 19S：講義科目と実験科目とのつながりを意識させるよう、実験の際に講義の内容を提示し、印象付けられるよう工夫した。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK : 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

成果：1. 全員単位を取得した。 2. 1, 2年生とも定期試験の平均点が上がった。
 課題：1. 選択科目ではあるが、2年生の受講者数が極めて少なかった。
 2. 1, 2年生とも学びへの向き合い方が2極化しており、その差は大きくなっている。
 3. 1, 2年生とも学びを目的としていない学生の意識を変えることができない。

学生による授業評価アンケートの結果

科 目 名	対象 学生	内容や レベル	教員の 教え方	学生の 学習意欲	学生の 理解度	授業外 学修時間	全般的な 満足度	
卒業研究	18S	4.0	4.1	4.4	4.4	25.6分	4.1	
学外実習Ⅰ	18S	4.5	4.5	4.7	4.6	109.6分	4.6	
学外実習総合演習	18S	4.2	4.2	4.4	4.3	75.0分	4.3	
長崎食育学	19S	4.4	4.5	4.5	4.5	81.4分	4.6	
食品学Ⅰ（食品成分の科学）	19S	4.2	4.1	4.1	3.7	69.6分	4.0	
食品学基礎実験	19S	4.2	4.2	4.3	4.0	109.3分	4.2	
食品学実験（調理科学含む）	18S	3.8	3.6	3.8	3.6	162.0分	3.8	
科 目 名	対象 学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価			
					S	A	B	C
					人	%	人	%
卒業研究	18S	必修	28					
学外実習Ⅰ	18S	選択	27	81.8	3 11.1%	17 63.0%	6 22.2%	1 3.7%
学外実習総合演習	18S	選択	27					
長崎食育学	19S	必修	29	74.6	0 0.0%	12 41.4%	12 41.4%	4 13.8%
食品学Ⅰ（食品成分の科学）	19S	必修	29	75.1	3 10.3%	11 37.9%	6 20.7%	8 27.6%
食品学基礎実験	19S	選択	29	72.3	1 3.4%	7 24.1%	13 44.8%	7 24.1%
食品学実験（調理科学含む）	18S	選択	5	83.4	1 20.0%	3 60.0%	1 20.0%	0 0.0%
					人	%	人	%
					人	%	人	%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

オフィスアワー以外にも質問に来る学生は、1年生に多く見られた。
 講義科目、実験科目とも結果や内容について数名で協議させることもあったが、アクティブラーニングといえるほどでもない。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

平成 31 年 前 期 授業評価報告書

氏名

森 弘行

1. 前年度の成果と課題 (CHECK : 検証)

- ・ノートを整理する習慣が身についていないため、昨年度はグループでまとめを行わせていたが、参加の程度の差があった。（情報リテラシー）

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

- ・レポート提出をグループ単位から個別に行わせるようにした。（情報リテラシー）

3. 今年度の活動内容・方法 (DO : 実行)

- ・説明より演習量を増やすことで操作に早く慣れることを目標にした。（情報処理演習）

4. 今年度の成果と課題 (CHECK : 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

- ・情報処理演習の前年度より教え方や満足度など、全般に向上した。
- ・情報リテラシーでは前年度とあまり変化がなかったが、試験結果は昨年度と同程度の問題であったが再試験者もなく、S評価もあった。
- ・情報技術や理論は、学生にとってあまり興味のない分野であるが、情報リテラシーの自由記述は好評の意見が多くった一方、プログラミングは履修者がなかった。

学生による授業評価アンケートの結果

科 目 名	対象 学生	内容や レベル	教員の 教え方	学生の 学習意欲	学生の 理解度	授業外 学修時間	全体的な 満足度									
キャリアアップセミナー 1	19L	4.1	4.3	4.3	4.2	37.5分	4.0									
キャリアアップセミナー 2	18L	4.5	4.5	4.5	4.5	16.2分	4.3									
プレゼミナール	19L	4.1	4.3	4.4	4.4	63.2分	4.0									
情報リテラシー	19L	3.6	3.7	4.0	3.6	47.1分	3.7									
情報処理演習	18S	4.1	4.1	3.9	3.8	30.0分	4.1									
科 目 名	対象 学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
キャリアアップセミナー 1	19L	必修	30		人	%	人	%	人	%	人	%	人	%		
キャリアアップセミナー 2	18L	必修	14													
プレゼミナール	19L	必修	30													
情報リテラシー	19L	必修	30	76.7	1	3.6%	9	32.1%	12	42.9%	6	21.4%	0	0.0%	0	0.0%
情報処理演習	18S	選択	16	84.4	5	31.3%	6	37.5%	5	31.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

- ・オフィスアワーは開設しているが、利用は少数。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

- ・視聴用教材の内容が古くなっている現在の技術に合っていないものもあり、見直しを検討。

平成 31 年 前 期 授業評価報告書	氏名	織田 芳人
1. 前年度の成果と課題 (CHECK : 検証)		
<p>①保育方法論 前年度は保育におけるICT活用は講義だけでは実感が伴わなかったようだったので、できる限り実際に園で行われている様子を画像で示すといった工夫が必要である。</p> <p>②卒業研究 前年度はパソコン習熟度の差で、人数の多いグループ内で不和が生じたため、互いが協力せざるを得ないようにグループ構成数を2~4名に抑えることにする。</p> <p>③生活とアート 前年度は実技も加えていたが、その技能レベルに大きな差があったので、美術の鑑賞を主としたい。</p> <p>④領域「表現」の指導法 表現領域における子どもとモノや情報との関わりについても、文字だけでなく画像を増やして少しでも実感できるようにしたい。</p>		
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)		
<p>①保育方法論 実際に園で行われているICT活用の画像を多くする。</p> <p>②卒業研究 グループ構成数を2~4名とする。</p> <p>③生活とアート 美術の鑑賞を主とし、中学校美術等で目にした可能性の高い画像を多くして、できるだけ親しみやすくする。</p> <p>④領域「表現」の指導法 表現領域における子どもとモノや情報との関わりが理解できるような画像を増やす。</p>		
3. 今年度の活動内容・方法 (DO : 実行)		
<p>①保育方法論 実際に園で行われているICT活用の画像を多くして、実感できるようにする。</p> <p>②卒業研究 自主的にグループ構成数が4名になったので、各グループでテーマ設定や文献資料収集に取り組めている。</p> <p>③生活とアート 美術の鑑賞を主とし、中学校美術等で目にした可能性の高い画像を多くし、各回の授業終了時にミニットペーパーを提出してもらう。</p> <p>④領域「表現」の指導法 表現領域における子どもとモノや情報との関わりが理解できるような画像を増やした。</p>		
4. 今年度の成果と課題 (CHECK : 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に		
<p>①保育方法論 実際に園で行われているICT活用の画像を多くしたので、講義内容に関心を持ってもらえたようである。実際に簡単なICT活用を体験してもらえるように工夫したい。</p> <p>②卒業研究 各グループが4名ずつに分かれたので、作業が早めに進められているようである。後期は、グループ間での進度が異なりつつあることを修正していきたい。</p> <p>③生活とアート 各回の授業終了時に提出してもらったミニットペーパーにも、中学校の美術で見た絵だったので懐かしかった等、親しみを持ってもらえたようである。グループワークとして、ペアで地域・年代別のチャート作成に取り組んでもらった。この回数を増やして相互の学修意欲を高めたい。</p> <p>④領域「表現」の指導法 表現領域における子どもとモノや情報との関わりが伝わりやすい画像を増やしたので、講義内容に関心を持ってもらえたと思われる。</p>		

学生による授業評価アンケートの結果

学生による授業評価アンケートの結果																
科 目 名	対象 学生	内容や レベル		教員の 教え方	学生の 学習意欲		学生の 理解度	授業外 学修時間		全体的な 満足度						
保育方法論	18Y	4. 1		4. 2	4. 1		4. 2	24. 4分		4. 2						
卒業研究	18Y	4. 4		4. 6	4. 6		4. 6	34. 1分		4. 6						
生活とアート	19S	4. 1		3. 8	3. 6		3. 8	26. 5分		3. 5						
生活とアート	19L	4. 7		4. 7	5. 0		4. 3	10. 0分		5. 0						
領域「表現」の指導法	19Y	4. 4		4. 4	4. 3		4. 3	31. 7分		4. 4						
科 目 名	対象 学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B							
					人	%	人	%	人	%						
保育方法論	18Y	選択	115	68. 1	2	1. 7%	15	13. 0%	31	27. 0%	64	55. 7%	0	0. 0%	1	0. 9%
卒業研究	18Y	必修	115													
生活とアート	19S	選択 必修	18	73. 8	1	5. 6%	7	38. 9%	5	27. 8%	4	22. 2%	0	0. 0%	0	0. 0%
生活とアート	19L	選択 必修	4	69. 5	3	75. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%
領域「表現」の指導法	19Y	必修	108	81. 3	20	18. 5%	53	49. 1%	26	24. 1%	5	4. 6%	3	2. 8%	0	0. 0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

アクティブラーニングとして、ペアを組む際に手間取ったが、ペアによるチャート作成を実施した。オフィスアワーを設定しているが、それを考慮して尋ねてくる学生は皆無と思われる。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

再課程認定の関係で授業内容が変更された「保育方法論」については、情報機器活用を実践する計画である。「生活とアート」については、ペアによるチャート作成の回数を増やして、学修効果を上げたい。

平成 31 年 前 期 授業評価報告書 氏名 松尾 公則

1. 前年度の成果と課題 (CHECK : 検証)

ヒトと生物は、生活創造学科の学生だけであるが、人数が7人と少なかったので、標本や実物を見せる時間が十分にあった。講義にも十分満足してもらったと思う。栄養士の科学は高校時代の化学の復習を実施しているが、知識差や能力差が大きく、講義の展開に苦労した。教材の多様な準備の必要性を感じた。卒業研究は前期からの活動により、後期にはまとめの時間をとる事ができた。同様に活動していきたい。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

ヒトと生物は、今年度は少人数だったので、受講生全員に標本や実物にゆっくりと見せることができた。栄養士の科学は、演習の時間や多様なプリントの準備をして、多少の能力差があっても満足できるような講義につとめたい。卒業研究は、前年通り前期に主な研究が終わるように工夫したい。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO : 実行)

ヒトと生物は、見せる標本や実物を増やし、ゆっくりと見せることができた。身近な動物の話が中心であり、かつ実物やDVDも見せたので、学生の意欲も高かったように思う。栄養士の科学では、教える内容を多少減らし、難しい分野の演習と理解につとめた。卒業研究は、早目早目の作業を実践した。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK : 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

ヒトと生物は、全体的な満足度も高い値（コースごとに、4. 8 5. 0）を示しており、講義の展開や工夫にある程度の評価を得たものと思う。更に、内容の充実や工夫を図っていきたい。栄養士の科学は、全体的な満足度が4. 6となっており、昨年度より上昇している。内容を精査し工夫した結果だと思う。能力差が大きく、やさし過ぎるという意見もあれば難しくて理解できないという意見もある。化学の基礎が分からない学生に焦点を当てながらも、学んで楽しい講義を目指したい。卒業研究は予定通りに進行している。

学生による授業評価アンケートの結果

科 目 名	対象 学生	内容や レベル	教員の 教え方	学生の 学習意欲	学生の 理解度	授業外 学修時間	全体的な 満足度									
ヒトと生物	18S	3. 8	4. 0	3. 8	4. 3	22. 5分	4. 8									
科 目 名	対象 学生	必修 選択	履修 者数	評 価												
				平均 点	S 人	S %	A 人	A %	B 人	B %	C 人	C %	F 人	F %	W (脱落) 人	W (脱落) %
ヒトと生物	18S	選択 必修	4	83. 8	2	50. 0%	1	25. 0%	0	0. 0%	1	25. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%
ヒトと生物	18L	選択 必修	3	88. 3	2	66. 7%	1	33. 3%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%
卒業研究	18Y	必修	115													
栄養士の科学	19S	選択	12	87. 2	6	50. 0%	3	25. 0%	3	25. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

講義と演習のためアクティブラーニングは実施していない。オフィスアワーでは、栄養士の科学の件で来室があり説明を行なった。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

ヒトと生物は、さらに内容の精選と充実を図り、地球環境や生態系について話をしていきたい。栄養士の科学は、栄養士を目指す学生にとって必要な化学の基礎を学ぶ時間であると認識し、苦手な学生のための講義を実践していきたい。卒業研究は新たな目標を開発していきたい。

平成 31 年 前 期 授業評価報告書 氏名 長尾 久美子

1. 前年度の成果と課題 (CHECK : 検証)

社会福祉制度や概論の講義科目で学生の関心が薄いため、主体的に関われるよう、教材や授業方法を改善し授業満足度を高めることが必要である。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

1. 社会福祉・社会保障の意義 や仕組みが理解できるように、日常生活や社会状況と関連付けながら、学生が自ら考え、関心を持てるような授業を展開する。

2. 社会福祉の専門職又は関連施設の専門職としての社会福祉・社会保障の知識、福祉的な対人援助の技術を修得できるような授業を行う。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO : 実行)

1 当日授業内容のポイントを簡潔にまとめた配布資料（両面1枚）に、学生自身が要点を補いながら受講する方法を取り入れる。

2 直近のニュースなど、身近でホットな話題を提供しながら、制度や仕組みと関連づけて理解させる。

3 視覚教材や現場の人の話を聞くなどを取り入れる。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK : 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

1 学生の授業評価アンケート結果は概ね問題なく、目標は一定程度達成できた。

2 成績は、S・A評価が57.4%で、B評価(27.8%)を加えると85.2%となり、社会福祉専門職として理解を深めることができた。

3 成績低位の一部学生について、よりわかりやすい授業を行うことが必要である。

学生による授業評価アンケートの結果

科 目 名	対象 学生	内容や レベル		教員の 教え方	学生の 学習意欲		学生の 理解度	授業外 学修時間	全体的な 満足度							
児童家庭福祉	19Y	4.2		4.2	4.1		4.1	24.3分	4.2							
評 価																
科 目 名	対象 学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	S	A	B	C	F	W (脱落)						
児童家庭福祉	19Y	選択	107	78.5	17 人	15.7% %	45 人	41.7% %	30 人	27.8% %	14 人	13.0% %	0 人	0.0% %	2 人	1.9%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

1 学生参加型の授業や外部の実践者の話を聞く授業ができた。

2 オフィスアワーは、時間をとっていたが利用はなかった。授業終了後に、教室内で質問する学生が少しいた。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

1. 社会福祉・社会保障の意義 や仕組みが理解できるように、日常生活や社会状況と関連付けながら、学生が自ら考え、関心を持てるような授業を展開する。

平成 31 年 前 期 授業評価報告書

氏名 白石 景一

1. 前年度の成果と課題 (CHECK : 検証)

「子どもと表現」については31年度新設。

「保育と音楽表現」の前年度の成果としては、受講生一人ひとりの性格や能力を踏まえ、音楽を通して楽しい授業が展開できたのではないか。課題としては、受講生自身が自主的に練習時間を確保し授業に臨むような授業を目指す。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

「子どもと表現」については、15回という短い期間での、幼児教育における表現の理解と音楽的基礎能力の習熟は困難ではあるが、なるべく一人ひとりの課題を毎回チェックし指導したいと考えた。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO : 実行)

毎時間、保育内容 領域 表現についての理解に関する内容と、それに関連する音楽的基礎能力（知識・技能）に関する内容の2本立てで実施した。特に、音楽的基礎能力については、ほぼ毎時間一人ひとりの課題チェックを実施した。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK : 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

1年分の内容を、どうにか半年で精力的に講義し、学生の参加度もそれなりにあった方ではないか。やはり、音楽に関しては経験者と初心者との差が非常に大きく、その両方に引っかかる講義内容を意識した。どうしても、昨年度までは通年で実施していた内容を前期のみでの実施となり、授業範囲も広く学生にとっては多少過重であったかもしれない。

学生による授業評価アンケートの結果

科 目 名	対象 学生	内容や レベル		教員の 教え方	学生の 学習意欲		学生の 理解度		授業外 学修時間		全体的な 満足度	
科 目 名	対象 学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価							
					S		A		B		C	
					人	%	人	%	人	%	人	%
保育と音楽表現	18Y	選択	115									
子どもと表現（音楽）	19Y	必修	108	74.8	12	11.1%	33	30.6%	36	33.3%	25	23.1%
					0	0.0%	2	1.9%				

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

オフィスアワーではなく、試験が近くなると空き時間に、質問などのため、研究室を訪ねる学生が多く見られた。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

平成 31 年 前 期	授業評価報告書	氏名	武藤 玲路
-------------	---------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK : 検証)

1) 前年度の社会心理学とビジネスデータ活用1・3の授業では、学生の基礎学力や応用力、学習意欲に二極分化的傾向が見られたため、今年度は、授業の構成や教材、教授法や課題、自由研究の方法を工夫し、個々の学生の学習意欲と問題解決能力の育成に努めたい。

2) 可能な限りアクティブラーニングの教授法を取り入れた授業を実施し、主体性や問題解決能力、人間関係力の育成に努めたい。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

1) 学生に質問をしたり、自由研究で発表をさせたりして、アクティブラーニングの教授法を必ず取り入れるようにする。

2) 授業で感じた学生の意見や感想を毎週評価し、学習意欲や問題解決能力の育成に努めるようとする。特に、社会心理学の授業の最後に、毎回授業の専門用語に関連する事例や感想を記述させるようにする。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO : 実行)

1) 今年度の社会心理学では、前半はテキストとオリジナルのプリント教材を用いて、テーマに関する用語や理論を説明し、後半はビデオ教材を上映してテーマの理解を深めるという流れで授業を構成した。また、教員の質問に対する学生の発言を得点化して成績評価に加点し、学生の能動的な学習意欲の促進を図った。さらに、授業の最後に毎回意見や感想のレポートを提出させたり、演習形式の授業や学生の研究発表も授業計画に取り入れたりした。

2) ビジネスデータ活用1・3では、前半はテキストに沿ってエクセルの機能と操作方法を説明し、後半は独立で練習問題に取り組むという流れで授業を構成した。また、定期試験の数週間前には、オリジナルの応用問題を出題することで、これまでの授業内容を総合的に理解し、正確さと迅速さと問題解決能力の育成に努めた。さらに、授業の最終回には自分の理解度や弱点のフィードバックを行い、学習意欲の促進を図った。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK : 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

1) 学生による授業評価アンケートの結果では、講義科目の社会心理学と演習科目のビジネスデータ活用1と3を含む全科目について、①内容やレベル、②教員の教え方、③学生の学習意欲、④学生の理解度、⑤全体的な満足度は、すべて4.0以上の高い自己評価である。

2) 授業担当教員による成績評価の結果では、ビジネスデータ活用3と社会心理学は、7割以上の学生がS・A・Bの高い成績を示して学習成果を上げている。

一方、成績評価の平均点は、ビジネスデータ活用1が72.0点、ビジネスデータ活用3が73.8点、社会心理学が72.8点で余り高くない。特にランクの学生の割合は、ビジネスデータ活用1が46.7%、ビジネスデータ活用3が21.4%、社会心理学が28.6%でかなり高い。このことは、能力や意欲が低い学生に対する学習支援を検討する必要性を示している。

学生による授業評価アンケートの結果

科 目 名	対象 学生	内容や レベル	教員の 教え方	学生の 学習意欲	学生の 理解度	授業外 学修時間	全般的な 満足度
キャリアアップセミナー1	19L	4.1	4.3	4.3	4.2	37.5分	4.0
キャリアアップセミナー2	18L	4.5	4.5	4.5	4.5	16.2分	4.3
ゼミナール	18L	4.2	4.5	4.4	4.4	30.0分	4.5
ビジネスデータ活用1	19L	4.0	4.2	4.3	4.0	64.3分	4.1
ビジネスデータ活用3	18L	4.4	4.0	4.5	4.5	46.2分	4.5
プレゼミナール	19L	4.1	4.3	4.4	4.4	63.2分	4.0
社会心理学	18L	4.5	4.5	4.5	4.5	41.5分	4.5

科 目 名	対象 学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 値											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
キャリアアップセミナー1	19L	必修	30													
キャリアアップセミナー2	18L	必修	14													
ゼミナール	18L	必修	14													
ビジネスデータ活用1	19L	必修	30	72.0	11	36.7%	1	3.3%	2	6.7%	14	46.7%	0	0.0%	0	0.0%
ビジネスデータ活用3	18L	必修	14	73.8	4	28.6%	3	21.4%	3	21.4%	3	21.4%	0	0.0%	0	0.0%
プレゼミナール	19L	必修	30													
社会心理学	18L	必修	14	72.8	3	21.4%	4	28.6%	2	14.3%	4	28.6%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

- 1) アクティブラーニングの手法は前期の全授業で取り入れており、授業の最終回あたりで、自由研究の課題の発表会を実施している。
- 2) オフィスアワーに訪問する学生はないが、それ以外の時間にパソコンの授業に関する質問が週に数件あるため、パソコンを用いて説明している。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

- 1) 今後はビジネスデータ活用1の表計算ソフト・エクセルの到達目標と教授法を改善・工夫し、学習成果の到達度と学習支援の満足度の向上に努めたい。
- 2) 社会心理学の授業の最後に毎回意見や感想のレポートを提出させたことは、学生と教員のフィードバックに大変有効であった。よって、次年度も継続して実施していきたい。
- 3) できるだけアクティブラーニングの手法を取り入れ、学修意欲や問題解決能力の学習成果を重視した授業と評価を実施していきたい。

平成 31 年 前 期 授業評価報告書	氏名	濱口 なぎさ
---------------------	----	--------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK : 検証)

- ・授業中に質問しやすいよう学生たちに働きかけ、教科書の見方の説明や、欠席者への補習などを丁寧に行った結果、学生の成績および満足度ともに昨年度より上昇した。
- ・受講している学生への目配りが行き届き、遅れている学生への対応を丁寧に行うことができた。
- ・「プレゼミナール」については、複数の専任教員で担当しているが、担当者間で学生指導に大きな差が出ないような配慮が必要である。
- ・各科目において、学生が発表する場を設けたことにより、前期末に実施した「プレゼミナール」のプレゼンテーションでの成果につながったと感じている。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

- ・演習系の科目については、学生一人ひとりの進捗状況を確認しながら、全体として計画通りの内容を修了できるよう配慮する。
- ・課題のチェックと学生へのフィードバックを丁寧に行う。
- ・学生たちの主体的な授業参加を目指すためにアクティブラーニングの手法を積極的に取り入れる。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO : 実行)

- ・医事コンピュータについては、履修者数が9名と少なかったため、学生一人ひとりの進度に気を配り、質問しやすい雰囲気を作り、丁寧に答えるよう心がけた。
- ・ゼミナールはゼミ生は4名しかいないが、積極的に発言する学生がいないため、まずは協力し合って活動できるよう、学生間での話し合いの時間を多く持つように配慮した。
- ・ビジネス文書作成3は今年度から開講した科目ということもあり、社会人になったときに役立つような内容を心がけ、教科書だけでなくオリジナルの教材も使用した。
- ・ビジネス文書作成1は、初心者クラスと経験者クラスで授業内容が乖離しないよう心がけた。
- ・情報検索は、講義科目ではあるが、前半は解説で後半に実践を行う内容にし、学生達の興味が継続するよう心がけた。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK : 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

- ・学生による授業評価アンケート結果を見ると、昨年度と大きな変動はなく、ほぼすべての項目で4以上となっている。また、自由記述欄に書かれていた内容からも、授業内容や教員の教え方について問題はないことが読み取れた。
- ・長期欠席した学生への対応を丁寧に行い、課題提出まで導くことができた。
- ・ビジネス文書作成1と情報検索については提出された課題のチェックが遅くなってしまい、フィードバックが十分に行えなかった。
- ・2年生全体にやる気のなさが感じられるため、後期の授業においては積極的に授業に参加するような工夫が必要だと感じている。

学生による授業評価アンケートの結果												
科 目 名	対象 学生	内容や レベル		教員の 教え方	学生の 学習意欲		学生の 理解度	授業外 学修時間	全体的な 満足度			
キャリアアップセミナー1	19L	4.1		4.3	4.3		4.2	37.5分	4.0			
キャリアアップセミナー2	18L	4.5		4.5	4.5		4.5	16.2分	4.3			
ゼミナール	18L	4.2		4.5	4.4		4.4	30.0分	4.5			
ビジネス文書作成1	19L	4.4		4.3	4.1		4.1	51.4分	4.3			
ビジネス文書作成3	18L	4.5		4.4	4.3		4.5	25.4分	4.5			
プレゼンナール	19L	4.1		4.3	4.4		4.4	63.2分	4.0			
医事コンピュータ	18L	4.7		4.4	4.3		4.2	30.0分	4.6			
情報処理演習	18S	4.1		4.1	3.9		3.8	30.0分	4.1			
情報検索	19L	4.4		4.6	4.6		4.4	55.7分	4.4			
科 目 名	対象 学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 値							
					S	A	B	C	F			
					人	%	人	%	人	%	人	%
キャリアアップセミナー1	19L	必修	30									
キャリアアップセミナー2	18L	必修	14									
ゼミナール	18L	必修	14									
ビジネス文書作成1	19L	必修	30	88.5	14	50.0%	13	46.4%	1	3.6%	0	0.0%
ビジネス文書作成3	18L	必修	14	86.2	8	61.5%	2	15.4%	1	7.7%	2	15.4%
プレゼンナール	19L	必修	30									
医事コンピュータ	18L	選択	9	86.2	4	44.4%	2	22.2%	2	22.2%	1	11.1%
情報処理演習	18S	選択	16	84.4	5	31.3%	6	37.5%	5	31.3%	0	0.0%
情報検索	19L	必修	30	86.1	4	14.3%	23	82.1%	0	0.0%	1	3.6%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

- ・情報検索においてプレゼンテーションを実施し、自己評価と他己評価を行った。
 - ・各科目の欠席者に対して、オフィスアワーや空き時間で補習を行った（随時）。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- ・学生達が能動的に授業に参加し、授業外の学修時間を確保するように課題の出し方を工夫する。
 - ・提出された課題のチェックを早めに行い、学生達への効果的なフィードバックを行えるよう配慮する。

平成 31 年 前 期 授業評価報告書

氏名

山口 ゆかり

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

昨年度前期の課題は、①事前事後学習を促すための方法を考えること（シラバスの充実）、講義科目にアクティブラーニングの要素を最低1回は取り入れることであった。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

今年度も昨年度に引き続き、到達目標を意識させながら、わかりやすい授業を心掛けるとともに、事前事後学習の充実を図る。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

- (1)これまで通り、授業の始まりと終わりに目的を説明し、習得すべき内容を意識させた。
- (2)講義科目では、小テストを3回実施し、事前事後学習の必要性を意識させた。
- (3)実習科目では、これまで通り自主献立試験を取り入れ、個々の実習力の向上を目指した。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

いずれの科目とも19Sの休学者1名を除く履修者全員が単位を修得し、授業評価アンケートにおいても全ての項目で4以上を示していることから、授業の進め方やレベルは、特に問題ないと思われた。また、今年度の目標であった事前事後学習を促す点については、卒業研究を除く全ての科目において、目標時間（30~60分）を達成できており、学習習慣の涵養につながった。しかし、担当した講義2科目については、C評価にとどまった約1割の学生の理解度や学修意欲を高めることができなかつた。

学生による授業評価アンケートの結果

科 目 名	対象 学生	内 容 や レ ベル	教員の 教え方	学 生 の 学習意欲	学 生 の 理 解 度	授業外 学修時間	全 体 的 な 満 足 度	
卒業研究	18S	4.0	4.1	4.4	4.4	25.6分	4.1	
学外実習Ⅰ	18S	4.5	4.5	4.7	4.6	109.6分	4.6	
学外実習総合演習	18S	4.2	4.2	4.4	4.3	75.0分	4.3	
給食経営管理論	19S	4.3	4.3	4.0	4.0	56.8分	4.2	
給食経営管理論実習Ⅱ	18S	4.8	4.5	4.8	4.7	66.8分	4.5	
調理学	19S	4.4	4.2	4.3	4.3	63.2分	4.3	
長崎食育学	19S	4.4	4.5	4.5	4.5	81.4分	4.6	
科 目 名	対象 学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価			
					S	A	B	C
					人	%	人	%
卒業研究	18S	必修	28					
学外実習Ⅰ	18S	選択	27	81.8	3 11.1%	17 63.0%	6 22.2%	1 3.7%
学外実習総合演習	18S	選択	27					
給食経営管理論	19S	必修	29	80.7	9 31.0%	13 44.8%	3 10.3%	3 10.3%
給食経営管理論実習Ⅱ	18S	選択	23	84.7	5 21.7%	14 60.9%	4 17.4%	0 0.0%
調理学	19S	必修	29	84.0	11 37.9%	14 48.3%	1 3.4%	2 6.9%
長崎食育学	19S	必修	29	74.6	0 0.0%	12 41.4%	12 41.4%	4 13.8%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

(1) アクティブラーニングについて

実習科目では、これまで通りグループワークと実習を中心に授業を進めた。

講義科目については、計算問題に取り組んだ際、周囲の学生と方法や解答を確認させる程度にとどまった。

(2) オフィスアワーについて

指定したオフィスアワーの時間ではなかったが、授業内容に対する質問に訪れた学生が1, 2年生併せて10名程度存在した。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

授業を通して、学ぶ楽しさや自ら考えて行動することの大切さを伝えていきたい。

平成 31 年 前 期 授業評価報告書						氏名	島田 幸一郎									
1. 前年度の成果と課題 (CHECK : 検証)																
<ul style="list-style-type: none"> 映像教材の活用とグループ協議及びプリント学習により、学習内容の理解に努めた。 上記によりほとんどの学生に学習内容の定着が見られたが、約10%程度の学生が授業内容を十分に理解できていない状態であった。 特に、社会事象への関心が希薄でまた自身で考え方を述べることが苦手であるため、グループ協議が低調であった。 																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)																
<ul style="list-style-type: none"> 映像教材やグループ協議、講義を系統的に行うことで、学生が学習に積極的に参加する態勢を築く。 毎授業、主題に沿った映像教材を精選する。 学生が自ら考え、自己の意見を表明できるようにグループ学習を充実する。 授業終了時に、主題に関する考え方や感想をまとめさせ学習内容の定着を図る。 																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO : 実行)																
<ul style="list-style-type: none"> 授業の流れは、原則として①映像視聴②グループ協議③講義④まとめとする。 映像は学生の興味・関心を抱くものを選定し、視聴時はメモ用プリントを配布してグループ協議の手助けとする。 グループ協議に際しては、具体的なテーマを設定して協議の活性化を図る。 授業全体の中で考えたことや感想をプリントにまとめ提出させる。 																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK : 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
<ul style="list-style-type: none"> 授業の流れは、授業の理解に役立ったとのことで概ね好評であった。 映像教材は主にテレビ録画を取り上げたが、ほとんどの学生が関心を持って視聴していた。 グループ協議は5回ごとに班編成を行った。リーダー格がいた班は活発であったが、そうでない班は低調であった。 まとめについては、国語力のある学生には有意義であったようだが、苦手な学生については負担となっていたようだ。 																
学生による授業評価アンケートの結果																
科 目 名	対象 学生	内容や レベル		教員の 教え方	学生の 学習意欲	学生の 理解度	授業外 学修時間	全体的な 満足度								
		4.5	4.5						4.5	4.5	15.0分	4.5				
保育実習指導Ⅲ	18Y	4.5		4.5	4.5	4.5	15.0分	4.5								
障がい児保育	18Y	4.2		4.3	4.1	4.2	13.8分	4.2								
科 目 名	対象 学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育実習指導Ⅲ	18Y	選択	2													
障がい児保育	18Y	選択	115													
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
<ul style="list-style-type: none"> アクティブラーニングに関しては、グループ協議とその後の全体への意見発表（毎時3名程度）で取り組んだ。 オフィスアワーに関しては、数名が障がいの内容に関して来室した。 																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)																
<ul style="list-style-type: none"> グループ協議の方法を工夫し、アクティブラーニングを一層推進する。 講義内容やプリントのまとめを精選することで、主体的な学びを具現化する。 																

平成 31 年 前 期	授業評価報告書	氏名	古賀 克彦
-------------	---------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK : 検証)

- ① 下位グループを底上げし、再試験受験者の減少。（栄養教育指導論Ⅰ）
- ② 下位グループを底上げし、再試験受験者の減少。（臨床栄養学Ⅱ）
- ③ 献立展開を苦手とする学生を減らす（ゼロを目指す）（臨床栄養学実習）
- ④ 出席状況を改善するため授業の目的及び意義の説明（栄養教育指導論実習Ⅱ）
- ⑤ 実習先評価の向上。（学外実習Ⅰ）

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

- ① 栄養指導に必要な基本的事項の修得を目指す（栄養教育指導論Ⅰ）
- ② 各種疾患の概要とその食事療法について理解することを目指す（臨床栄養学Ⅱ）
- ③ 各種治療食の調理方法の修得とともに、献立展開の技術習得を目指す（臨床栄養学実習）
- ④ 集団栄養指導のスキル修得と糖尿病食品交換表の理解を目指す（栄養教育指導論実習Ⅱ）
- ⑤ 学外実習の円滑な実施を目指す（学外実習Ⅰ）

3. 今年度の活動内容・方法 (DO : 実行)

- ① 理解度を高める為に毎回プリントを配布。また、試験前に授業とは別に解説を実施した。（栄養教育指導論Ⅰ）
- ② 理解度を高めるために毎回プリントを配布した。また、試験前に授業とは別に解説を実施した。（臨床栄養学Ⅱ）
- ③ 学生が苦手とする献立展開については同じ内容のレポートの繰り返し添削を実施（臨床栄養学実習）
- ④ 実際に学生の前で栄養指導を行うことにより、栄養指導技術の修得を目指した（栄養教育指導論実習Ⅱ）
- ⑤ 学外実習の意義や目的を繰り返し説明した（学外実習Ⅰ）

4. 今年度の成果と課題 (CHECK : 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

- ① 成績は昨年度とあまり変わらず。再試験受験者は減少（栄養教育指導論Ⅰ）
- ② 授業内容を理解していない学生が一定数存在（臨床栄養学Ⅱ）
- ③ レポート提出状況が悪い学生も一定数存在。指導を繰り返すが効果は低い。（臨床栄養学実習）
- ④ 出席状況が悪い学生や、授業に取り組むが姿勢が悪い学生が一定数存在。（栄養教育指導論実習Ⅱ）
- ⑤ 今年度の実習先の評価は昨年より向上したが、さらなる向上が望まれる。（学外実習Ⅰ）

学生による授業評価アンケートの結果

科 目 名	対象 学生	内容や レベル	教員の 教え方	学生の 学習意欲	学生の 理解度	授業外 学修時間	全体的な 満足度
卒業研究	18S	4.0	4.1	4.4	4.4	25.6分	4.1
学外実習Ⅰ	18S	4.5	4.5	4.7	4.6	109.6分	4.6
学外実習総合演習	18S	4.2	4.2	4.4	4.3	75.0分	4.3
栄養教育指導論Ⅰ	19S	4.2	4.0	3.9	3.9	35.4分	4.1
栄養教育指導論実習Ⅱ	18S	4.1	4.4	4.2	4.3	90.0分	4.2
臨床栄養学Ⅱ（食事療法の原理）	18S	4.3	4.1	4.3	4.0	53.3分	4.0
臨床栄養学実習	18S	4.1	4.2	4.2	4.1	77.8分	4.2
長崎食育学	19S	4.4	4.5	4.5	4.5	81.4分	4.6

科 目 名	対象 学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 價											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
卒業研究	18S	必修	28													
学外実習 I	18S	選択	27	81.8	3	11.1%	17	63.0%	6	22.2%	1	3.7%	0	0.0%	0	0.0%
学外実習総合演習	18S	選択	27													
栄養教育指導論 I	19S	必修	29	74.8	5	17.2%	10	34.5%	3	10.3%	10	34.5%	0	0.0%	0	0.0%
栄養教育指導論実習 II	18S	選択	28	75.9	0	0.0%	13	46.4%	10	35.7%	5	17.9%	0	0.0%	0	0.0%
臨床栄養学 II (食事療法の原理)	18S	選択	28	77.2	3	10.7%	12	42.9%	7	25.0%	6	21.4%	0	0.0%	0	0.0%
臨床栄養学実習	18S	選択	28	82.2	8	28.6%	10	35.7%	9	32.1%	1	3.6%	0	0.0%	0	0.0%
長崎食育学	19S	必修	29	74.6	0	0.0%	12	41.4%	12	41.4%	4	13.8%	0	0.0%	1	3.4%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

アクティブラーニングに関しては、栄養教育指導論実習 IIにおいて、学生が班ごとに栄養指導のテーマを決め、原稿や媒体を作り発表する授業を実施している。講義系科目では未実施なので今後の課題としたい。
 オフィスアワーに関しては、指定外の時間に学生が訪ねてくる場合が多いので、その都度面談（雑談的な場合が多くあり）を実施している。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

- ① 基礎学力向上。下位グループを底上げし、再試験受験者の減少。（栄養教育指導論 I）
- ② 栄養士実力認定試験成績向上。下位グループを底上げし、再試験受験者の減少。（臨床栄養学 II）
- ③ 献立展開を苦手とする学生を減らす（ゼロを目指す）（臨床栄養学実習）
- ④ 出席状況を改善するため授業の目的及び意義の説明（栄養教育指導論実習 II）
- ⑤ 実習先評価の向上。（学外実習 I）

平成 31 年 前 期 授業評価報告書

氏名

中村 浩美

1. 前年度の成果と課題 (CHECK : 検証)

個室で行うマンツーマンのピアノ・弾き歌い・歌唱のレッスンでは学生の必要以上の緊張や抵抗があるため、教員と学生間の距離が少しでも縮められ信頼関係を築くことに努めた。レッスンの内容や進め方に於いても学生の意見や考え・思いを随時聞くようにした。結果、学生個人個人の性格を早く把握する事ができ、学生も心を開いて考えや思いを説教的に伝えてくるようになり、全員ではないが意欲を感じられ努力するようにならった。しかし、基礎的な音楽理論の認知度が低い学生においては、授業時間外で同意のもとレッスンをしたため、限られた授業時間内での指導法に研究の余地があった。ピアノ個人レッスンだけではなく「保育と音楽表現」の班分けでの授業においても、教員の性格や考え方・経験談を話す事で、「先生」と言う職業について、音楽が何をもたらすのか、経験によっての生き方と考え方、保育者になる事とは、についての興味を持ち意識できる学生も増えた。課題は増加しているピアノ初心者に対して授業時間内で理解力と進度力をどのようにつけるかである。班分けを行っている「保育と音楽表現」では学生の性格や専門教科への認知度を早く把握して、一人ひとり違った課題点の指導や、積極的な授業の取り組みとなるための授業展開と進度の考察である。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

- 教員として学生が成長できるための能力や個性を持ち備えている事を常に意識し、指導をする。
- 少しの成長や達成に対しても褒めながら分析・説明をする。
- 保育者になるための高い意識を持たせること、やる気にさせるための指導方法の工夫をする。
- 人の前にでることへの羞恥心を軽減できるための授業展開を行う。
- 言葉や感情や場を考慮して指導する。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO : 実行)

- 学生一人ひとりの個性を早く見極めて、その学生自身に見合った指導をする。
- やる気にさせる言葉や授業内容及び進め方の工夫をする。
- メンタル面強化の励みの言葉かけをする。
- 演奏を苦痛に思わず、奏でられる事の喜びや楽しみを感じてもらう。
- 学生自身が自らの課題点や到達点を発見でき次のステップに生かせる助言と指導を行う。
- 自信は勇気の積み重ねであり、失敗を恐れず一步を踏み出すメンタル面からの勇気を促す。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK : 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

どの教科においても常に学生とのコミュニケーションを大切にしてきた。教員と学生間の距離を縮めながらお互いを知り、信頼関係を築くことで極度な緊張感を和らげ、ピアノ個人レッスン・ゼミでは特に教員と学生間の溝はなく、目標・到達点に近づくための指導ができたたと思う。しかし、班編成で受講する「保育と音楽表現」では、まだ緊張感を抱き控えめになりがちである事や、自分を表現する事が苦手な学生への声かえと指導法を威圧感なく行う事は課題である。また、年々ピアノ初心者が増加しているが、その学生達を始め努力の継続がなく次のピアノレッスン・手あそび歌授業を迎える学生が非常に多くいたため、どのような指導が練習継続の強化に繋がるかも課題である。

学生による授業評価アンケートの結果

科 目 名	対象 学生	内容や レベル		教員の 教え方	学生の 学習意欲	学生の 理解度	授業外 学修時間	全体的な 満足度						
保育と音楽表現	18Y	4.2		4.0	4.3	4.3	104.6分	4.2						
保育実習指導Ⅱ	18Y	4.3		4.5	4.5	4.5	50.4分	4.5						
卒業研究	18Y	4.4		4.6	4.6	4.6	34.1分	4.6						
子どもの歌と伴奏法	19Y	4.4		4.4	4.6	4.5	82.6分	4.5						
評 價														
科 目 名	対象 学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	S	A	B	C	F	W (脱落)				
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育と音楽表現	18Y	選択	115											
保育実習指導Ⅱ	18Y	選択	115											
卒業研究	18Y	必修	115											
子どもの歌と伴奏法	19Y	必修	108											

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

音楽を通じて心の悩みを打ち明ける学生を始め、音楽に関係なく悩みや不安を打ち明けて来る学生も多く、それぞれ抱えている悩みに時に教員として、時に人生の先輩として、心からの思いや考え、方法などを時間をかけて相談にのっている。相談に来た学生も時間をかけて何度も面談をする事で心のつかえが取れたり、悩みを解決しようと言う前向きな考えを持つようになってきたりと、悩みを克服したい一心がその学生の成長に繋がっていると感じている。今後も学生の悩みや相談には時間をかけてじっくり話を聞き、学生の悩みの負担を軽減でき成長できるための指導をしたい。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

- ピアノレッスンに関しての不安感が強い学生、自分の声や声の出し方にコンプレックスがある学生へのメンタル面の強化や、学生自身が 各々の課題を知り克服できるための指導を強化したい。
- 学生一人ひとりの性格を早く把握し、各々の個性を大切に教員と学生間の信頼関係を構築しながら指導したい。
- 学生自身が自分の良さや課題点、好きな面、嫌いな面と、自分を知る事によつ今後の人生にどう繋がるかのディスカッションを設け、その機 教員も自身の人生経験を話しながら課題点を克服できるように、また良い点はさらに伸びるよう指導したい。

1. 前年度の成果と課題 (CHECK : 検証)

学生が体験したり視聴したりした遊びや保育の様子を振り返る機会を増やしたことで、授業中、表情が晴れやかになったり大きくなったりする学生が増えた。実際、定期試験において評価の高い学生が増加傾向にある。しかし、成績の上位者と下位者の差が大きく、理解度の低い学生への対応についてさらに工夫する必要がある。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

科目の見直しにより授業内容が変更されることを受け、遊びの実践や現場で必ず行うことを多く経験できるように工夫する。たとえば、保育の計画を立て、実践・評価するところまで行ったり、付属幼稚園の設備を借りて遊んでみたりなどである。このような取り組みにより、知識理解を深め、高い実践力を身につけさせたい。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO : 実行)

1年次の保育内容総論における遊びの実践を早い段階で経験させ、子どもの活動のいたるところに保育者の願いが込められていることを実感させたうえで、領域「表現」の指導法にて保育実践を行う流れとする。保育実践は4~5名のグループ活動とし、一人一人が確実に役割を果たす経験を得られるようにする。2年次の保育方法論は、1年次に学んだことを確認する機会を多く設け、理解を確実にして実習に臨めるようにする。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK : 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

1年次の前期のうちに保育計画を立案し実践することは、学生にとって負担が大きいのではないかと懸念したが、その時点での学びを活用する取り組みにしたことで無理なく行えた。座学ばかりでなかつたため学生にとっては楽しみながら取り組めたように感じられる。ただ、保育実習でより充実した学びを得られるようにすることが望ましいと考えるため、1年次後期に用意期の指導法についての科目をまとめたほうがいいと考える。

学生による授業評価アンケートの結果

科 目 名	対象 学生	内 容 や レ ベル		教員の 教え方	学 生 の 学習意欲	学 生 の 理 解 度	授業外 学修時間	全 体 的 な 満 足 度								
		4.4	4.5													
保育内容総論	19Y	4.4	4.5	4.3	4.3	32.3分	4.3									
保育実習指導Ⅱ	18Y	4.3	4.5	4.5	4.5	50.4分	4.5									
保育方法論	18Y	4.1	4.2	4.1	4.2	24.4分	4.2									
卒業研究	18Y	4.4	4.6	4.6	4.6	34.1分	4.6									
教育実習	18Y	4.3	4.5	4.5	4.5	73.9分	4.5									
領域「表現」の指導法	19Y	4.4	4.4	4.3	4.3	31.7分	4.4									
評 価																
科 目 名	対象 学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	S	A	B	C	F	W (脱落)						
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%		
保育内容総論	19Y	必修	108	69.6	5	4.6%	15	13.9%	23	21.3%	63	58.3%	1	0.9%	0	0.0%
保育実習指導Ⅱ	18Y	選択	115													
保育方法論	18Y	選択	115	68.1	2	1.7%	15	13.0%	31	27.0%	64	55.7%	0	0.0%	1	0.9%
卒業研究	18Y	必修	115													
教育実習	18Y	選択	115													
領域「表現」の指導法	19Y	必修	108	81.3	20	18.5%	53	49.1%	26	24.1%	5	4.6%	3	2.8%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

アクティブラーニングとして、鬼ごっこ（しっぽとり）の遊びの実践のほか、絵本の読み聞かせの経験を積み重ねる取り組み、保育計画を立案し実践する取り組みを行った。
オフィスアワーの時間は確保しているが、すべて時間外に飛び込みで相談に来る学生ばかりであった。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

科目の見直しにより授業内容が変更されたため、遊びの実践や現場で必ず行うことを多く経験できるように工夫する。たとえば、保育の計画を立て、実践・評価するところまで行ったり、付属幼稚園の設備を借りて遊んでみたりなどである。このような取り組みにより、知識理解を深め、高い実践力を身につけさせたい。

1. 前年度の成果と課題 (CHECK : 検証)

乳児保育や子どもの保健Ⅰ・Ⅱは、適宜、視聴覚教材を使用することにより、子どもの成長・発達、病気に関することなど、具体的にイメージしやすかったようだ。座学ばかりではなく、グループワークなどを取り入れ、時間の許す範囲で発表の機会を作ったが、多人数のため全員に発表の機会は与えられなかった。演習においては、実技試験不合格の学生には、授業以外の時間で個別対応を実施した。その結果、実習前には、ほぼ全員が一定レベルに達したと考える。前回課題としていた実技試験後の時間の使い方だが、手順や注意事項記入用紙を記入してもらうことで改善した。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

資料はない重要な部分の書き取りができるよう言葉かけを行い、自ら考え、たくさんの人の前で発言できる機会を増やす。また、今後も質問しやすい環境づくりを行えるように配慮することを目標とした。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO : 実行)

パワーポイントで授業を行うが、重要なことを話す際は、明確に伝えながら書き取りができるよう配慮した。時にはDVDを視聴したり、障害を持たれている方の本の内容を紹介して理解に努めてもらった。その後は特徴的なポイントの振り返りを行いながら、授業を勧めるよう心掛けた。さらに、保健の授業では、グループワークを通して発表する機会を設け、保育者を目指す者として人前で話す機会を多く作った。また演習では、人形1体に対して学生2名の割り振りを行い、共にアドバイスや協力しながら演習を進めていくように配慮した。実技試験終了後は、手順や注意事項の記入用紙を配布し、振り返りを行ってもらうようにした。また各授業終了時には必ず質問タイムを設け、不明なことはその日のうちに解決できるよう配慮した。理解が不十分な学生には、授業外で質問や演習指導を行う事を伝え、相談しやすい環境を作ってきた。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK : 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

授業評価アンケートでは4.5から4.6の評価となっている。視聴覚教材や言葉かけ、アクティブラーニングを活用し座学や実技もおこなっているが、なかなか全員が満足いく授業に到達しない。今回は、実技科目で記入用紙を導入し、毎回添削しながら、実習前に学生全員に返却するようにした。手順や注意事項の確認などができるよかったですのではないかと考える。今後も授業における工夫をしながら、理解しやすい授業を目指したい。

学生による授業評価アンケートの結果

科 目 名	対象 学生	内容や レベル		教員の 教え方	学生の 学習意欲		学生の 理解度	授業外 学修時間	全体的な 満足度							
		4.5	4.5		4.5	4.5			4.5	4.5						
乳児保育	19Y	4.5	4.5	4.5	4.5	4.4	4.4	26.3分	4.5	4.5						
保育実習指導Ⅰ	18Y	4.3	4.3	4.5	4.6	4.5	4.5	47.9分	4.4	4.4						
保育実習指導Ⅱ	19Y	4.3	4.3	4.4	4.5	4.5	4.5	25.8分	4.5	4.5						
卒業研究	18Y	4.3	4.3	4.5	4.5	4.5	4.5	50.4分	4.5	4.5						
子どもの保健演習	18Y	4.4	4.5	4.6	4.6	4.6	4.6	34.1分	4.6	4.6						
科 目 名	対象 学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S	A	B	C	F	W(脱落)	W(脱落)					
乳児保育	19Y	選択	108		人	%	人	%	人	%	人					
保育実習指導Ⅰ	18Y	選択	115													
保育実習指導Ⅱ	19Y	選択	108													
卒業研究	18Y	必修	115													
子どもの保健演習	18Y	選択	115	80.8	15	13.0%	67	58.3%	25	21.7%	6	5.2%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

アクティブラーニングは、個人の調べ学習からグループワーク、まとめ、発表という形を取った。オフィスアワーは空き時間にはすべて受け入れるようにしていた為、学生は来室しやすかった。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

前期から導入したかった小テストを実施し、授業の理解度をより高めて、授業評価向上を図りたい。

平成 31 年 前 期 授業評価報告書

氏名

蛇原 正貴

1. 前年度の成果と課題 (CHECK : 検証)

前年度は、学生の授業満足度という点においては目標水準に届いていたものの、学修の定着、学生の意欲という点では課題の残る結果となっていた。

前年度の課題としては、

(1) 指導案作成を含めた、より現場に近い状況での模擬保育を取り入れ学生の主体的・実践的な保育力を高める。

(2) 幼児の運動遊びに関する基本的事項について、主体的な説明ができるとともに、運動の基礎的技能を身につける。

(3) 生涯にわたる健康の基礎となる乳幼児の心身の発育・発達について、討論形式、穴埋め形式の問題を用いながら理解を深める。

の3点が挙げられ、学生の授業に対する満足度はもちろん、主体的に授業に臨むような工夫に加え、社会に出たときにすぐに使える力の習得が求められた。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

(1) 指導法を中心に、より現場での活用を目的とした内容の充実を図る。

(2) アクティブラーニングを取り入れながら、学生の意欲を高め、主体的な学びが展開されるような授業内容を検討する。

(3) 身につけた技能と知識を用いて問題解決を図れるように、技能、知識の活用法について理解を深める。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO : 実行)

「動きのリズム」及び「運動遊びの実践」の授業では、実戦形式を多く取り入れ、学生達自身で授業を創り上げていくような授業形態で授業を行った。また、「幼児体育」では指導法に加え、学生自身が「動きのコツ」をつかめるよう、器械運動における技の習得を目指した。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK : 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

実戦形式を授業に多く取り入れた結果、昨年よりも学生の学習意欲に関しては改善することができた。しかし、その他の項目については昨年度を下回る結果となっていたため、内容、授業形態の見直しが必要である。「動きのリズム」及び「運動遊びの実践」においては、選択科目であったため、少人数制での内容の充実が図れたが、「幼児体育」においては人数が50名近くいたため、指導が行き届かない部分があった。そのため、大人数でも内容の充実が図れるような授業形態を検討していきたい。

学生による授業評価アンケートの結果

科 目 名	対象 学生	内容や レベル	教員の 教え方	学生の 学習意欲	学生の 理解度	授業外 学修時間	全般的な 満足度					
保育実習指導Ⅱ	18Y	4.3	4.5	4.5	4.5	50.4分	4.5					
科 目 名	対象 学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価							
					S		A		B		C	
					人	%	人	%	人	%	F	
動きのリズム（指導法）	18Y	選択	18	80.7	9	50.0%	5	27.8%	2	11.1%	1	5.6%
卒業研究	18Y	必修	115									
幼児体育	18Y	必修	115	85.4	51	44.3%	44	38.3%	14	12.2%	4	3.5%
運動遊びの実践（指導法）	18Y	選択	20	69.8	4	20.0%	6	30.0%	5	25.0%	3	15.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

どの授業においてもアクティブラーニングを取り入れ、学生自身で学習内容を深められるようにした。オフィスアワーに関しても、随時対応した。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

選択科目が多いため、次年度は選択してよかったですと思えるような授業を実施したい。また、人数が多い科目に関しても、グループ学習を効果的に取り入れ、全体の学修定着率が向上するように努めたい。アクティブラーニングの実施比率に関しても再検討し、引き続き学生が主体的に学べる環境を整えていきたい。

平成 31 年 前 期 授業評価報告書

氏名

江頭 万里子

1. 前年度の成果と課題 (CHECK : 検証)

学生による授業評価は、ゼミナールの2項目を除いて、4.0～4.5であり、ほぼ問題は無かったと考えるが、ゼミナールは、教員の教え方、全体的な満足度が共に3.9であったが、後期には4.7へ改善した。

成績の低い学生は、欠席日数が多い傾向にあった。習熟度を上げるために、出席を促すことも必要である。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

- (1) 秘書実務2では、実践力を向上させるために当日担当秘書並びに新聞記事の報告を継続する。
- (2) 秘書概論では、今年度同様後半の授業時にアクティブラーニングの手法を取り入れ、問題解決力、発信力を育成する。
- (3) マナー学では、昨度同様授業内容の定着を図るために、授業内容の日常での実践を促していく。
- (4) ゼミナールでは、学生とのコミュニケーションを密に行い、問題があれば早めに把握できるようにする。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO : 実行)

- (1) 秘書実務2では、新聞記事の報告を行わせ、総合演習時には、状況設定だけを教員が行い、学生が内容を考えて演じるロールプレイングを実施させた。
- (2) 秘書概論では、後半の授業時にアクティブラーニングの手法を取り入れ、グループで問題解決させる授業を行った。また、毎週廊下のホワイトボードに秘書検クイズを掲示し、授業内容に興味を持たせる取り組みを行つた。
- (3) マナー学では、昨年同様授業内容の定着を図るために、授業で学んだマナーの日常での実践を課し、自己評価による振り返りを行わせた。また、疑問点を残さないように、授業終了時に毎回質問があれば書いて提出させ、次回の授業時にクラス全体に向けて回答した。
- (4) ゼミナールでは、学生とのコミュニケーションを密に行い、問題があれば早めに把握できるようにした。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK : 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

学生による授業評価は担当した全ての科目で、全ての評価項目が5点満点中4.1～4.5であり、特に問題はなかったと思われる。

授業終了前の短い時間を利用して、疑問点があれば書いて提出させ、次の授業時に全員に向かって回答したところ、質問に対する誠実な対応に好印象を持ってくれたのか、今年度は質問数が例年より多く、授業内容に興味を示してくれたので、今後も続けていきたい。

昨年度の課題でもあった、欠席日数の多い学生への対応については、できる限り声掛けをするように試みたが、本年度も同様の問題が残った。

学生による授業評価アンケートの結果

科 目 名	対象 学生	内容や レベル		教員の 教え方	学生の 学習意欲		学生の 理解度		授業外 学修時間		全体的な 満足度	
ゼミナール	18L	4.2		4.5	4.4		4.4		30.0分		4.5	
科 目 名	対象 学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価							
					S		A		B		C	
ゼミナール	18L	必修	14		人	%	人	%	人	%	人	%
マナー学	19S	必修	29	82.6	10	34.5%	12	41.4%	5	17.2%	1	3.4%
秘書実務2	18L	必修	14	74.2	3	21.4%	5	35.7%	3	21.4%	2	14.3%
秘書概論	19L	必修	30	81.4	11	36.7%	14	46.7%	3	10.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

担当した全ての科目で、アクティブラーニングの手法ができるかぎり取り入れた授業を行つた。

オフィスアワーは、指定した時間の他、在室時は隨時可としていたので、教員在室時には指定の時間に関係なく訪問があった。内容は、授業内容、検定試験についてがほとんどであった。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

- (1) 秘書実務2では、秘書の学びの総仕上げとして、敬語の知識と運用力を上げる取り組みを行う。
- (2) 秘書概論では、今年度同様後半の授業時にアクティブラーニングの手法を取り入れ、問題解決力、発信力を育成する。
- (3) マナー学では、昨度同様授業内容の定着を図るために、授業内容の日常での実践を促し、質問しやすい環境づくりを行う。
- (4) ゼミナールでは、学生とのコミュニケーションを密に行い、問題があれば早めに把握できるようにする。

1. 前年度の成果と課題 (CHECK : 検証)

※今年度より授業名が「子どもと表現（造形）」変更。以下は前年度通年「子どもと美術」の成果と課題を記す。

子どもと美術：自己紹介絵本制作は概ね学生のモチベーションも高く作業も順調に行えていた。個々の工夫の光る、魅力的な発表も多く見られた。これからも、授業と実習の往還を意識した題材設定を心がけたい。
基本的知識が十分身についていない、またはこちらが催促するまで提出物を平気で忘れる学生がいる。課外の時間を使い、自主的に作業をする者も見受けられるが、6割の学生が予習復習・制作にほとんど時間を費やしていない実態がある。自主的に復習し、課題を完成させ、期限内に提出する等の態度を身につけさせたい。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

- 引き続き、「現場で活ける実技」体験を重視する。
- 前期「子どもの表現（造形）」では造形活動を行う際に基本となる身近な材料体験を主にする。
 - 1 筆記試験でなく提出物による評価を重視 (100%)。
 - 2 製作の自由感のなかにも保育者としての視点を意識させ、心地よい緊張感を持たせる。
 - 3 技術的評価以上に、保育に対する自らの思いを明確にし、丁寧に作品と向き合う姿勢を重視する。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO : 実行)

- 前年度同様に節目ごとのスケッチブックのチェック、現場で役立つ教材づくり及び発表等を行う
- 1 授業内で前もって提出遅延・未提出者に対する注意喚起を行う
- 2 活動後の感想や気づきを書かせ、学生の制作過程における思考変遷を重視する
- 3 最終課題として、自分たちが体験した絵具遊びを子どもと行っている光景を絵画で表現させる

4. 今年度の成果と課題 (CHECK : 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

- 授業感想では様々な材料に触れられた、製作体験ができたことに対する評価が見られた
- 1 提出物遅延・未提出に対する指導
欠席者呼び出しや連絡を教務課やチューターの協力を得ながら行えた。しかし最終的に提出のなかった学生が数名おり、60点に点数が届かず失格扱いとした。
- 2 限られた製作時間内で書いたことで量的には少ない傾向だが保育者目線の気づき・抱負が見られた。後期の授業でも引き続き実施したい
- 3 苦手意識の出やすい「空間」や「人体」の表現にも取り組み、ほほえましい光景を描くことに注力した姿が見られた。

○集中講義形式のため、予習復習の時間がとりづらかったことと思われる。これはアンケート結果にも反映され、6割が予復習を行っていないことが明らかになった。

後期「子どもの絵と製作（指導法）」では、自分たちの活動を通した経験について考えさせ、言語化するようにする。制作後、個人またはグループで、全員に対しプレゼンテーションを実施する。

学生による授業評価アンケートの結果

科 目 名	対象 学生	内容や レベル		教員の 教え方	学生の 学習意欲		学生の 理解度	授業外 学修時間	全体的な 満足度							
科 目 名	対象 学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
子どもと表現（造形）	19Y	必修	108	73.9	0	0.0%	23	21.3%	73	67.6%	7	6.5%	4	3.7%	0	0.0%
教育実習	18Y	選択	115													

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

引き続き、保育における基本的な材料体験を通して、支援に必要となる材料・用具の知識をおさえさせる。

1. 前年度の成果と課題 (CHECK : 検証)

- ・前年度は担当なし。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

- ・複数のテキストを参照しながら、学生がスタンダードな学識を得られるように取り組む。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO : 実行)

- ・簡易なテキストを複数参照し、映像も用いた。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK : 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

- ・本学の学生の特徴や関心の方向がつかめた。広い関心をもってもらおうとしたが、それぞれのテーマがどのように将来の保育に関わるのか、より明確に意識付けをおこなう必要性を感じた。

学生による授業評価アンケートの結果

科 目 名	対象 学生	内容や レベル		教員の 教え方		学生の 学習意欲		学生の 理解度		授業外 学修時間		全体的な 満足度				
保育原理	19Y	3. 9		3. 7		3. 8		3. 8		22. 0分		3. 8				
保育実習指導Ⅱ	18Y	4. 3		4. 5		4. 5		4. 5		50. 4分		4. 5				
卒業研究	18Y	4. 4		4. 6		4. 6		4. 6		34. 1分		4. 6				
教育史	18Y	3. 5		3. 4		3. 7		3. 4		9. 6分		3. 5				
評 価																
科 目 名	対象 学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育原理	19Y	選択	108	71. 0	8	7. 7%	29	27. 9%	32	30. 8%	35	33. 7%	0	0. 0%	0	0. 0%
保育実習指導Ⅱ	18Y	選択	115													
卒業研究	18Y	必修	115													
教育史	18Y	選択	115	69. 5	3	2. 7%	25	22. 1%	48	42. 5%	37	32. 7%	0	0. 0%	0	0. 0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

- ・学生の理解度をはかるため、適宜短い論述を求めた。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

- ・次年度は、テーマの設定・講義の構成をより学生の実態に即して考える。

平成 31 年 前 期 授業評価報告書

氏名

桑原 倫子

1. 前年度の成果と課題 (CHECK : 検証)

今年度より新規担当

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

調理学実習 I …調理器具の使用方法や食材の扱い方など、調理学の基礎的知識を習得させる。
子どもの食と栄養…栄養に関する基礎的な知識を習得させる。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO : 実行)

調理学実習 I …調理の基礎となる調理器具や食材の扱い方から教え始め、包丁の使い方や動かし方を細かく示し練習させた。一通り覚えた後は、献立形式の料理を作らせた。技術習得確認のための実技試験や、調理に関する知識の習得を確認するための筆記試験を実施した。
子どもの食と栄養…スライドやプリントを用い、食と栄養に関する基礎的知識習得の為の授業を行い、筆記試験を実施した。また調乳や離乳食についての実習も行った。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK : 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

調理学実習 I …筆記試験においては高得点獲得者が多く、調理に関する基礎的な知識は身についたように考えられる。しかしながら実技試験においては全体に点数が低く、今後も更なる細かい指導や反復練習が必要だと感じられた。
子どもの食と栄養…筆記試験においては満点をとる学生がいる一方、理解を示していない学生もあり、今後の授業法を変える必要があると感じた。実習においては、人数に対し狭い調理室で行わざるを得ないので、きめ細やかな実習が行えない部分もあったと感じている。

学生による授業評価アンケートの結果

科 目 名	対象 学生	内容や レベル		教員の 教え方	学生の 学習意欲		学生の 理解度	授業外 学修時間	全般的な 満足度							
科 目 名	対象 学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
子どもの食と栄養	18Y	選択	115													
学外実習 I	18S	選択	27	81.8	3	11.1%	17	63.0%	6	22.2%	1	3.7%	0	0.0%	0	0.0%
学外実習総合演習	18S	選択	27													
調理学実習 I (調理実験を含む)	19S	必修	29	75.0	1	3.4%	13	44.8%	9	31.0%	5	17.2%	0	0.0%	0	0.0%
長崎食育学	19S	必修	29	74.6	0	0.0%	12	41.4%	12	41.4%	4	13.8%	0	0.0%	1	3.4%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

調理学実習 I …授業中モニターを使い、手元や鍋の中の様子を学生に見せながら進めている。少数ながら授業外で質問に訪れる学生もいた。

子どもの食と栄養…授業中スライドを用い説明したり、動画を見せたりした。試験前に集中して、質問をしに訪れていた。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

調理学実習 I …基本的実技・技術の習得率をより高めるため、実技練習の時間を多くとらせる。
子どもの食と栄養…栄養素の基礎知識を行きわたらせるため、より簡素にポイントを絞った授業を行う。

平成 31 年 前 期 授業評価報告書 氏名 桑原 真美

1. 前年度の成果と課題 (CHECK : 検証)

前年度担当科目なし

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

授業方法および授業内容の確立

3. 今年度の活動内容・方法 (DO : 実行)

健康管理概論、栄養学Ⅰはパワーポイントを使用した授業とし、配布資料はパワーポイントの内容を穴埋め式にしたものとした。また、単元ごとに確認問題プリントを配布・実施し、授業内容をどの程度理解しているか、どこが弱点なのかを学生自身が把握できるようにした。毎回の授業では出席確認の代わりに質問や今日学んだ事、授業に対する要望等を自由に記載できるカードを配布し、授業後に回収することで、その場では質問しにくい学生への対応およびその都度授業改善を行った。

卒業研究に関しては前期中にテーマを決定しそれに関する調査を終え、後期はデータ整理および報告集作成を行うこととした。

学外実習Ⅰ・学外実習総合演習に関しては、実習ノートの評価および実習先からの課題に関しての助言等を行った。

長崎食育学では、担当回に大村寿司の歴史等を説明した後、大村寿司を実際に作る実習を行った。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK : 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

健康管理概論・栄養学Ⅰは配布資料を穴埋め式にしたこと、ほとんどの学生が授業に集中できたように見受けられた。確認問題プリントについては学生から実施したほうがいいという意見が多かったため、今後も続けていきたい。

栄養学Ⅰに関しては、評価がB・Cの学生が非常に多かった。内容的に苦手意識を持った学生が多いことも原因であるが、私自身の知識不足や教え方についても問題があると考えている。

卒業研究については学生の授業評価アンケートの結果がやや低かった。研究に関しては私自身も手探りな部分が多くなったことが反省点である。研究内容・活動内容の見直しや、卒研生への関わり方等、検討しなければならない。

学外実習Ⅰ・学外実習総合演習に関しては実習先からの課題について学生自身も積極的に教員に質問やアドバイスを求めている様子が伺えた。

長崎食育学に関しては、学生が積極的に授業を受けていたようだった。担当回では時間がやや押したため、時間に余裕が持てるような実習内容を検討したい。

学生による授業評価アンケートの結果

科 目 名	対象 学生	内 容 や レ ベ ル		教 員 の 教 え 方	学 生 の 学 習 意 欲		学 生 の 理 解 度		授 業 外 学 修 時 間		全 体 的 な 満 足 度
健康管理概論	19S	4.7		4.5		4.1		3.9		64.6分	4.5
卒業研究	18S	4.0		4.1		4.4		4.4		25.6分	4.1
学外実習Ⅰ	18S	4.5		4.5		4.7		4.6		109.6分	4.6
学外実習総合演習	18S	4.2		4.2		4.4		4.3		75.0分	4.3
栄養学Ⅰ（基礎栄養学）	19S	4.5		4.6		4.3		4.3		69.6分	4.5
長崎食育学	19S	4.4		4.5		4.5		4.5		81.4分	4.6

評 価

科 目 名	対象 学生	必修 選択	履修 者 数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F			
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%		
健康管理概論	19S	選択	13	83.6	5	38.5%	3	23.1%	3	23.1%	2	15.4%	0	0.0%	0	0.0%
卒業研究	18S	必修	28													
学外実習Ⅰ	18S	選択	27	81.8	3	11.1%	17	63.0%	6	22.2%	1	3.7%	0	0.0%	0	0.0%
学外実習総合演習	18S	選択	27													
栄養学Ⅰ（基礎栄養学）	19S	必修	29	73.6	2	6.9%	9	31.0%	10	34.5%	7	24.1%	0	0.0%	0	0.0%
長崎食育学	19S	必修	29	74.6	0	0.0%	12	41.4%	12	41.4%	4	13.8%	0	0.0%	1	3.4%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

アクティブラーニングについては実施なし。

オフィスアワーについては質間に来る学生はほとんどいなかった。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

栄養学Ⅰに関しては、パワーポイント資料の修正および内容の見直しを行い、より理解しやすい授業を実施できるよう努める。また、学生が質間に来やすい雰囲気を作りを心掛けることで、全体的な成績向上を目指す。

卒業研究に関しては、後期はさらに積極的に学生とのコミュニケーションを図り、学生の意見をできるだけ多く取り入れた活動を行うようにする。また、研究のデータ整理や報告集作成に関して、卒研生全員が役割を持って活動できるようにしたい。

学外実習・学外実習総合演習に関しては、後期も前期同様実習先からの課題について積極的に助言等をしていきたい。

長崎食育学に関しては、来年度の担当回は新たなテーマを考えることになるので、授業内容・方法等について検討していきたい。